

社団法人日本新体操連盟

平成18年度第2回理事会議事録

1. 会議名： 平成18年度第2回理事会
2. 日時： 平成18年10月12日（木）18時30分～20時00分
3. 場所： 東京都港区西麻布3-2-32 「麻布霞会館・203号室」
4. 構成員現在数： 22名
5. 出席役員： 二木 英徳（会長） 朝倉 正昭（副会長） 福本 隆（副会長）
荒井 隆（専務理事） 関田史保子（常務理事） 渡辺 守成（常務理事）
秋山エリカ（理事） 池田真喜子（理事） 岡 久留実（理事）
佐藤 昌子（理事） 谷口 裕代（理事） 橋本 千波（理事）
山崎 浩子（理事） 岩本 晃（理事）
高橋 明（副会長） 石崎 朔子（常務理事） 上村 郁子（理事）
崇島 慎一（理事） 谷原 誠（理事） 藤島八重子（理事）
田中 元（監事） 横田 章（監事）
以上22名（うち委任状出席8名）

6. 欠席役員： 以上0名

7. 議案：
報告事項
報告事項1 平成18年度登録報告（定款第3章関連事項）
報告事項2 第15回全日本新体操クラブ選手権（定款第5条関連事項）
報告事項3 第6回全日本新体操クラブ団体選手権（定款第5条関連事項）
報告事項4 ワールドカップファイナル&イオンカップ2006
（定款第5条関連事項）
報告事項5 その他
決議事項
第1号議案 第9回全日本新体操チャイルド選手権について
（定款第5条関連事項）
第2号議案 新体操バッヂテストについて（定款第5条関連事項）
第3号議案 その他

8. 議事の経過及び結果
(1) 議長による開会宣言
（社）日本新体操連盟・定款第24条第2項の定めにより議長を会長二木英徳がつとめ、開会宣言を行った。
(2) 議事録署名人の選出
定款第32条により、議長は議事録署名人を荒井隆専務理事と谷口裕代理事にする事を議場に諮り承認された。
(3) 定足数の確認
定款第25条の定めにより、総会出席者数委任状含めて19名であることが池田理事より告げられ、議決定足数を満たしている事が報告された。
(4) 報告事項
報告事項1 平成18年度登録報告について（定款第3章関連項目）
議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。
2006年度登録を5月31日に締め切り、
クラブ数 511団体
選手数 8324人
愛好者数 33359人
指導者数 1314人

審判数 1005 人

の登録があったことが報告された。登録人数が順調に増えていることが確認された。

報告事項 2 第 15 回全日本新体操クラブ選手権（定款第 5 条関連項目）

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

大会は 8 月 22 日から 24 日に掛けて「東京体育館」で開催され

参加クラブ数 206 クラブチーム

参加選手数 618 人

で開催された。今回大会より有料座席チケット制度にて観覧いただくこととなったが、会場前の混雑がなくなり、苦情も見受けられなかった。また、観客の方から「並ばなくて良かった」などの声も聞かれた。

選手のご家族と思われる方が男性 1 人で観戦されているお客様を勘違いで不審者扱いされたり、オペラグラスなどを勝手に取り上げられてしまったりしてお客様同士でのトラブルが発生した。

競技関係では、セイコーの新システムを採用しスムーズに進行したことが報告された。

質疑

1. 二木会長よりお客さん同士の混乱は避けるべきとの提言があり、検討の結果、次回以降制服警備員を配置すること、警備してる旨の掲示をすることとなった。
2. 二木会長より日本の競技水準が国際レベルに達していないとの提言があり、社団法人日本新体操連盟が率先してレベルを上げていくようにする方法を模索することとなった。

報告事項 3 第 6 回全日本新体操クラブ団体選手権（定款第 5 条関連項目）

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

大会は 9 月 10 日に「東京体育館」開催され

参加クラブ数 100 クラブチーム

参加選手数 646 人

で開催され、団体選手権においても有料座席チケット制度を導入し、混乱がなくなり、前売りでチケットが完売するほど盛大な大会へと成長してきた。参加者数は年々増加しており、今大会では 100 クラブチームの参加があった。そのため、1 日開催で競技フロア 1 面で進行している現在の進行方法では時間的に厳しくなってきた。次年度以降の進行方法は 2 面で行うなど検討しなければならない。

シニア選手とジュニア選手が混じってチームを編成する「混成チームの部」に今回より得点順位で表彰することとなったが、参加チームが少なかったため、シニアルールを選択した「混成シニアの部」では出場 2 チーム両チームを表彰することとなった。「混成の部」の見直しの時期に来たように思われる。競技関係では、審判採点業務に手間取り、競技時間が 20 分近く遅れたことが報告された。

質疑

1. 二木会長より「混成の部」を「シニアの部」に組み込んでみてはどうかと提案があった。
関田常務理事より「全日本選手権」には「混成チーム」の出場資格がないことを伝えなければならないと進言があり、次年度以降で変更していくこととなった。

2. 佐藤理事より「ジュニアの部」の上位入賞チームの中に、実力はあるが「全日本ジュニア選手権」に出場できないチームがある。それは、「全日本ジュニア」が地方ごとに予選を行うためであり、この「団体選手権」から推薦することはできないかと提案があった。関田常務理事より「全日本ジュニア」の開催意義がブロック代表同士の大会であるため、他大会からの受け入れを行い、参加チームが増えた場合日程的に開催できないなど、根本から検討しなければならない懸念事項があることが説明された。検討された結果、本連盟より日本体操協会へ「団体選手権」上位チームの「全日本ジュニア選手権」出場状況を考慮し、柔軟に対応できる推薦枠を求めることとなった。
3. 佐藤理事より学校2期制となっているので、時期的に最適の時期だったと報告があった。
4. 渡辺常務理事より競技進行が20分遅れたことについて、その原因を審判採点業務の得点調整と判断し、その解決方法として
 - ・競技の検証制度の設置
 - ・審判の得点チェック&イエローカードなどの措置を講じる。と提案され、次年度実施の方向で進めることとなった。

報告事項4 ワールドカップファイナル&イオンカップ2006（第5条関連項目）

議長は説明者として渡辺常務理事を指名し、渡辺常務理事は下記内容の説明を行った。

今年度FIG主催の「ワールドカップファイナル」と本連盟主催の「イオンカップ」が同時開催されること。出場選手はほとんど両大会に出場すること。「ワールドカップ」はNHKが放送、「イオンカップ」は日本テレビが放送となっていることが報告された。

報告事項5 その他について

その他については報告されなかった。

(5) 決議事項

第1号議案 第9回全日本新体操チャイルド選手権について（定款第5条関連事項）

議長は説明者として池田理事を指名し、池田理事は下記内容の説明を行った。

チャイルド選手権の要項が今年度事業計画において得点配分の変更、言葉の言い回しの変更などを少々変更する予定となっており、その訂正が完了し、最終確認のため資料を添付した。

質疑

1. 佐藤理事より衣装、化粧、飾りつけを派手すぎるので、要項に派手にしないようにと付け加えたいとの提案があったが、「チャイルド選手権」の開催意義など検討した結果、現行制度で進めることとなった。
2. 佐藤理事よりルールについて型にはまっている等の意見が参加者よりあることが伝えられ、検討した結果、審判の研修を行い、バッヂテストと重ねて選手、指導者を育成することとなった。

以上の質疑のあと決議された。

第2号議案 バッジテストについて（定款第5条関連事項）

議長は説明者として橋本理事を指名し、橋本理事は下記内容の説明を行った。

現行開催している指導者育成セミナーとリンクをさせて、バッヂテストを実施していくこと。1月開催に向けて詳細をつめていることが説明され、進行することが確認された。

第3号議案 その他について

①その他は審議されなかった。

(6) 閉会宣言

議長は他に質問、意見がないのを確認し理事会の終了を宣した。

この議事録が正確であることを証するため、議長ならびに議事録署名人は次に署名押印する。

平成18年10月12日

社団法人 日本新体操連盟 平成18年度第2回理事会

議 長 二 木 英 徳

議事録署名人 荒 井 隆

同 谷 口 裕 代